

<p style="text-align: center;">発行者名</p> <p>採択基準</p>	<p>東京書籍（新編 新しい科学）</p>
<p>1 教科の目標からの配慮</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ つまづきやすい項目には「例題」「練習」を配置し、「考え方」で詳細な解説を示すことで知識及び技能の定着を図っている。 ・ 探究の過程に直結した活動が段階ごとに示されており、思考力、判断力、表現力等が育成されるよう工夫がなされている。 ・ 学習前後に同じ問いかけ「Before & After」を設定し、学ぶ意味や有用性、自己の成長を実感できるよう工夫がなされている。
<p>2 生徒の学習活動への配慮</p> <p>○内容の程度</p> <p>○学習活動への誘意性</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等</p> </div>	<ol style="list-style-type: none"> (1) 既習事項や他教科と関連する内容を「これまでに学んだこと」、「(教科名)で学ぶこと」として示し、より深い理解につながるよう工夫がなされている。 (2) 問題発見として重点を置く節では「問題発見 レッツスタート！」で、生徒の気付きや認知的葛藤を生じる場面を設定することにより、探究活動を促すよう工夫がなされている。 (3) 思考する場面に、対話例を効果的に位置付け、生徒のつまづきへの支援とともに、対話的な活動を促すよう工夫がなされている。 (4) 注意事項が視認性の高いマークで示されており、安全や環境に対する配慮がなされている。 (5) グラフ等の図版は色で区別するだけでなく、線種で区別したり、意味を言葉で示したりすることで、全ての生徒が見やすくなるよう配慮がなされている。
<p>3 学習指導への配慮</p> <p>○単元・題材の配列</p> <p>○内容の扱い</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>「知識及び技能の習得」のための工夫、「思考力、判断力、表現力等の育成」のための工夫、「学びに向かう力、人間性等の涵養」のための工夫、関連性・連続性、個に応じた学習、他者との協働、まとめと評価</p> </div>	<ol style="list-style-type: none"> (1) 教材の入手時期や、既習事項との連続性や発展性を考慮して単元を配列し、授業で扱う事項が広がりをもつよう工夫がなされている。 (2) 問題発見や構想、分析解釈などの場面で、働かせたい「理科の見方・考え方」が示され、科学的な解決や深い学びにつながるよう配慮がなされている。 (3) 見開きの授業時数が1時間になるように編集され、その中で育む資質・能力がページ下部の「探究のステップ」と対応するよう工夫がなされている。 (4) 観察、実験の手順が上から下へわかりやすく示されていることで、観察、実験が安全に実施できるよう配慮がなされている。 (5) 身近なものを対象とした図や写真・コラムを掲載し、日常生活と科学とのつながりを実感しやすくなるよう工夫がなされている。 (6) 学習問題に対する考えを自分の言葉でまとめ、章末で示された記述例との比較により、評価に生かせるよう工夫がなされている。
<p>4 全体的な特色</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 導入の場面で写真、イラストにより生徒の興味・関心を喚起したり、身近な題材を取り上げ既習概念との「ずれ」を生じさせたりすることで、主体的に探究する力が育まれるよう工夫がなされている。 ・ 3年間を通じて計画的に、科学的に探究するために必要な資質・能力を育成することができるよう、各学年で重視する探究の過程を扱う配慮がなされている。

発行者名 採択基準	大日本図書（理科の世界）
1 教科の目標からの配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・ 観察、実験の目的、着目点の明示や、実験の図の掲載により、見通しをもって探究を進め、知識及び技能が身に付くよう配慮がなされている。 ・ 観察、実験の次のページに、結果と考察の例文を示し、思考力や表現力を高められるよう配慮がなされている。 ・ 科学と日常生活や社会との関連を示す資料が豊富で、知的好奇心を高め、科学的に探究する態度が育つよう工夫がなされている。
2 生徒の学習活動への配慮 ○内容の程度 ○学習活動への誘意性 本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等	<ol style="list-style-type: none"> (1) つまづきそうな問題には例題を設けて詳しく解説したり、章ごとに学習の確認ができる「章末問題」を掲載したりして、学習内容が定着するよう配慮がなされている。 (2) 探究の過程を「問題を見つけよう、計画を立てよう、結果から考えよう、振り返ろう、話し合おう」の五つで表し、生徒が主体的に見通しをもって探究活動に取り組めるよう配慮がなされている。 (3) 「話し合おう」や「私のレポート」などを設定し、表現力を高め、対話的な学びが実現するよう工夫がなされている。 (4) 観察、実験の基礎技能をイラストで明確に示すとともに、注意が黄色枠に黒字で表現されており、安全に対する配慮がなされている。 (5) 吹き出しの文章の改行位置を工夫したり、グラフの色や線種を変えたりするなどして、全ての生徒が見やすく読みやすくなるよう配慮がなされている。
3 学習指導への配慮 ○単元・題材の配列 ○内容の扱い 「知識及び技能の習得」のための工夫、「思考力、判断力、表現力等の育成」のための工夫、「学びに向かう力、人間性等の涵養」のための工夫、関連性・連続性、個に応じた学習、他者との協働、まとめと評価	<ol style="list-style-type: none"> (1) 単元配列が、観察、実験に適した時期、学年によって必要な器具が重ならないよう配慮がなされている。 (2) 各学年巻頭の「理科学習の進め方」で、探究の過程に沿った学習の流れを示すとともに、各単元でその具体を示し、資質・能力の育成が図られるよう工夫がなされている。 (3) 単元末の「探究活動」や巻末の「自由研究にチャレンジしよう！」により、学んだことを活用して主体的に探究活動に取り組めるよう工夫がなされている。 (4) 注意を喚起するマークの使用や、少量の薬品で実験が行えるマイクロスケール実験の紹介で、安全面や環境面に配慮がなされている。 (5) 単元の導入部分に、写真を多数用いた「これまでに学習したこと」を設け、既習事項と関連付けて学べるよう配慮がなされている。 (6) 単元末に、学んだことの活用場面として読解力問題を配置し、思考力や表現力が身に付く工夫がなされている。
4 全体的な特色	<ul style="list-style-type: none"> ・ 暮らしの中の理科や、理科に関連した産業等を、写真や図を用いて多数掲載し、理科での学びを日常生活や社会と関わらせながら深めていけるよう工夫がなされている。 ・ 各学年で重視する探究の過程を明示することで、生徒が見通しをもって主体的に探究を進め、段階的に資質・能力を育成できるよう工夫がなされている。

<div style="text-align: center;">発行者名</div> 採択基準	学校図書（中学校 科学）
1 教科の目標からの配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事物・現象について細かく書かれ、写真や図、表が多く掲載されており、知識及び技能が身に付くよう工夫がなされている。 ・ 科学的に探究する方法が、授業時間ごとに詳しく説明されており、思考力、判断力、表現力等が身に付くよう配慮がなされている。 ・ 巻頭のコラムに、科学的な探究がどのように役立つか解説されており、科学的に探究しようとする態度を養うよう配慮がなされている。
2 生徒の学習活動への配慮 ○内容の程度 ○学習活動への誘意性 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: fit-content;"> 本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等 </div>	<ol style="list-style-type: none"> (1) 各単元のはじめに、「ふり返ろう・つなげよう」が掲載されており、既習事項とこれから学習することとの関連性や系統性が意識できるよう配慮がなされている。 (2) 観察、実験ごとに、「気づき、課題、仮説、計画、方法、結果、考察」という流れになっており、「理科の見方・考え方」を働かせながら、科学的な探究ができるよう配慮がなされている。 (3) キャラクターによる話合いが数多く例示されており、観察、実験の着眼点をもち、対話的な学びができるよう配慮がなされている。 (4) 観察、実験の手順が、実物写真で示されており、手元の操作と比較しやすくなるよう配慮がなされている。 (5) 図やグラフを大きく掲載し、指示薬等の図に色の名前を付加したり、グラフの線の種類や色を変えたりして、全ての生徒に分かりやすいよう配慮がなされている。
3 学習指導への配慮 ○単元・題材の配列 ○内容の扱い <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: fit-content;"> 「知識及び技能の習得」のための工夫、「思考力、判断力、表現力等の育成」のための工夫、「学びに向かう力、人間性等の涵養」のための工夫、関連性・連続性、個に応じた学習、他者との協働、まとめと評価 </div>	<ol style="list-style-type: none"> (1) 単元の配列が、観察、実験に適した時期になっており、各学年で必要な器具が重ならないよう配慮がなされている。 (2) 科学的な探究に向けて、「理科の見方・考え方」が、教科書の下部や、コラム「理路整然」で示されており、科学的な解決や深い学びができるよう配慮がなされている。 (3) コラム「理路整然」やキャラクターによる話し合いで、対話の重要性や科学的探究における主体的・対話的な学習の流れが示されており、主体的で対話的な学びができるよう配慮がなされている。 (4) 1学年の「基本操作」では、事故の防止に留意した内容が記載されており、安全面に対する配慮がなされている。 (5) 各単元に関連した「補充資料」が終末にまとめられており、学んだことがさらに深められるよう工夫がなされている。 (6) 各単元の「Can-Do List」に、育成すべき資質・能力が示され、生徒自身が意識した学習ができるよう配慮がなされている。
4 全体的な特色	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各単元のはじめに設定されている「Can-Do List」で、単元の学習内容に見通しをもち、目的意識をもって学べるよう配慮がなされている。 ・ 検証方法の立案や結果を分析して解釈する場面等で、コラム「理路整然」が多く掲載されており、科学的に探究するために必要な資質・能力を身に付けられるよう工夫がなされている。

<div style="text-align: right;">発行者名</div> 採択基準	<div style="text-align: center;">教育出版（自然の探究 中学理科）</div>
1 教科の目標からの配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・ 重要語句の整理や基本、活用問題などといった5段階のステップを通して、知識及び技能の定着が図れるよう工夫がなされている。 ・ 巻頭で示した「探究の進め方」に基づく具体的な探究の流れを示すことで、探究する力が育まれるよう構成されている。 ・ 学習前後の自己の変容を振り返ることにより、主体的に学習に取り組む態度が育まれるよう工夫がなされている。
2 生徒の学習活動への配慮 ○内容の程度 ○学習活動への誘意性 本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等	<ol style="list-style-type: none"> (1) 「これまでの学習」や「学習前の私」により、既習事項の確認ができるとともに、学習の一貫性や連続性が図られるよう工夫がなされている。 (2) 「ハローサイエンス」による生活経験や地域性と結び付いた科学的事象を扱っていることで、実生活との関係や学びの連続性を実感することができるよう工夫がなされている。 (3) 結果の処理や考察などの場面において、生徒が自分の考えを基に主体的に話し合いができるよう工夫がなされている。 (4) 実験の手順が大きな図や写真で示され、注意を喚起するマークを適所に使用し、安全に配慮できるよう工夫がなされている。 (5) 学年に応じた文字の大きさや色への配慮、大判の紙面による学習の流れの把握のしやすさなど全ての生徒にとって見やすくなるよう配慮がなされている。
3 学習指導への配慮 ○単元・題材の配列 ○内容の扱い 「知識及び技能の習得」のための工夫、「思考力、判断力、表現力等の育成」のための工夫、「学びに向かう力、人間性等の涵養」のための工夫、関連性・連続性、個に応じた学習、他者との協働、まとめと評価	<ol style="list-style-type: none"> (1) 巻頭で示した「探究の進め方」に基づく共通した構成がなされており、探究的に学習を進められるよう配慮がなされている。 (2) キャラクターが「理科の見方・考え方」を働かせて議論する場面が設定されており、生徒が参考に対話的に学び、育成を目指す資質・能力を身に付けられるよう配慮がなされている。 (3) 課題の設定や考察などの各場面に「考えよう」が設定されており、生徒一人一人が自身の考えをもつことの重要性について触れる中で生徒が主体的に学習に取り組めるよう配慮がなされている。 (4) 「注意」や「禁止」マークの使用や、物質や試薬の説明文の掲載により、安全面や環境面に配慮がなされている。 (5) 大判を使用することで資料性が高まり、学習の流れが見やすくなるよう配慮がなされている。 (6) 「学習前の私、学習後の私」が設けられており、生徒が学習の前後で科学的な概念の変容を認識できるよう工夫がなされている。
4 全体的な特色	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大きな写真やイラストで自然の事物・現象が示されていることで、生徒が主体的に問題を見つけ、課題を設定していけるよう工夫がなされている。 ・ どのページを開いた状態でも参照できる「探究の進め方」を「折り込み」として設けることで、自分が探究の過程のどの段階にいるのかをいつでも確認できるよう工夫がなされている。

<div style="text-align: right;">発行者名</div> 採択基準	<div style="text-align: center;">啓林館（未来へひろがる サイエンス）</div>
1 教科の目標からの配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各章末では、その章で学習した基礎的・基本的な問題が掲載されており、知識及び技能が定着するよう工夫がなされている。 ・ 自分の考えを書いたり、現象をモデル化したりする場面が設定されており、思考力や表現力が育成されるよう工夫がなされている。 ・ 節末、単元末の科学に関する読み物・資料の掲載により、理科への興味や有用性を感じられるよう工夫がなされている。
2 生徒の学習活動への配慮 ○内容の程度 ○学習活動への誘意性 本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等	<ol style="list-style-type: none"> (1) 章の導入及び単元内の適所に「つながる学び」が配置されており、小学校理科や下位学年の既習内容を踏まえた上で、新たな学習に取り組めるよう工夫がなされている。 (2) 科学的な探究を重視する観察、実験を「探Q観察（実験）」とし、「探Qシート」を設け、生徒が自ら観察、実験を計画し、結果を分析して解釈できるよう工夫がなされている。 (3) 章の初めに単元を印象付ける写真等を配置し、生徒の疑問を引き出し、主体的に問題を見いだす力を育てるよう工夫がなされている。 (4) 観察、実験の「安全マーク」は、文字とイラストを組み合わせ、注意すべき内容が確実に伝わるよう配慮がなされている。 (5) 1年の文字サイズを、小学校理科6年と中学校理科2・3年の中間サイズに設定するとともに、図や写真を紙面上部に集めることによって、多様な生徒にとって見やすいよう配慮がなされている。
3 学習指導への配慮 ○単元・題材の配列 ○内容の扱い 「知識及び技能の習得」のための工夫、「思考力、判断力、表現力等の育成」のための工夫、「学びに向かう力、人間性等の涵養」のための工夫、関連性・連続性、個に応じた学習、他者との協働、まとめと評価	<ol style="list-style-type: none"> (1) 全学年「生命」「地球」「物質」「エネルギー」の順に単元を配列し、身近でイメージしやすい内容から学べるよう工夫がなされている。 (2) 各場面に配置されたキャラクターの発言などで、「理科の見方・考え方」を働かせた思考や表現の例が示されており、生徒が発言を参考にしながら考えを深められるよう配慮がなされている。 (3) 部活動、食育、キャリア教育などにつながる「○○ラボ」や「Action活用してみよう」を配置し、理科の知識や概念を日常生活の場面に活用し、理科への興味や有用性を感じられる工夫がなされている。 (4) 使用する薬品の量を少なくする実験方法を示すとともに、環境に関する話題にはマークを示し、自然環境に配慮がなされている。 (5) 「サイエンス資料」が学習内容に近い場所に配置され、必要に応じて利用しやすいよう配慮がなされている。 (6) 「Review ふり返ろう」は3観点の評価に対応した問いになっており、観点別学習状況の評価に活用できるよう工夫がなされている。
4 全体的な特色	<ul style="list-style-type: none"> ・ 探究を促すために細分化された「探Q○○」が「実験、シート、ラボ、たね、クラブ」など多く用意されており、科学的に探究するために必要な資質・能力が育成されるよう工夫がなされている。 ・ 巻頭の「ICTの活用」や各所に配置された「ICTマーク」「ICTでトライ」で、ICT機器を活用できる場面や方法を提示しており、1人1台端末を活用した学びができるよう工夫がなされている。